

公 益 社 団 法 人

福岡県作業療法協会会報

第120号 平成27年7月15日発行

(事務局)

〒802-0044 北九州市小倉北区熊本1丁目9-1 ONE OFF第2ビル101号

T E L 093-952-7587 発行責任者 志井田 太一 編集責任者 許山 勝弘

ホームページアドレス : <http://www.fuku-ot.org/>



特集： 意志・感情を引き出し「活動」「参加」につなげる作業療法
～生活行為向上マネジメントを一緒に学びましょう～

目次

巻頭言： 「障害が重荷にならない社会作り」	
公益社団法人 福岡県作業療法協会 副会長 竹中 祐二	・・・ 1
会長行動	・・・ 2
福岡県の皆さんと共に！	・・・ 2
公益社団法人福岡県作業療法協会 副会長 座小田 孝安	
地域包括ケアシステム構築へ積極的に参画を	・・・ 3
公益社団法人 福岡県作業療法協会 会長 志井田 太一	
平成27年度 介護報酬改定について	・・・ 4
福岡県作業療法協会 保険委員会担当理事 医療法人柳育会 八女リハビリ病院 福田 裕樹	
特集：意志・感情を引き出し「活動」「参加」につなげる作業療法 ～生活行為向上マネジメントを一緒に学びましょう～ 社会医療法人 共愛会 介護老人保健施設あやめの里 作業療法士 都甲幹太 (日本作業療法士協会 生活行為向上マネジメント推進委員会 委員)	・・・ 6
臨時理事会議事録	・・・ 12
定期社員総会議事録	・・・ 13
理事会議事録	・・・ 15
各部・委員会からのお知らせ	・・・ 18
Occupation：	大川病院 濱村美千代 ・・・ 21
リレーエッセイ：	療養介護事業所ひなた家 鐘ヶ江秀俊 ・・・ 22 医療法人 優なぎ会 雁の巣病院 渡邊雅子
会員動向調査	・・・ 23

巻 頭 言 「障害が重荷にならない社会作り」

公益社団法人 福岡県作業療法協会
副会長 竹中 祐二

本業（養成校教員）のかたわらで近隣の保健所，特別支援学校での発達相談，療育相談や育児支援に関わって27年になる．出先では就学前，学齢期のお子様を持つ保護者や保育・教育関係者からのご相談を受けることが多い．さらに，7年前からは地域の母子の自助グループとの関わりがこれらに加わった．

このグループ，もともとは保健所での発達相談を受けたメンバーが三々五々集まって家族や子どもたちの相互交流と相互支援を始めたものである．共通しているのはNICUを卒業した母子であるということ．近隣の市民，小児科医，看護師等の支援（皆さんボランティアです）もあって，もともと多彩な技能を持つ若いお母さま達は徐々に力を発揮しました．今では毎月の定例会のほか，ピア傾聴活動，家族ぐるみで楽しめるイベントの企画・実施と手広く事業を展開している．更には，周産期医療や療育に関わる様々な問題点の解決や改善策を，医療機関や行政機関に対し提言していく社会運動も行っている．

グループが立ち上がった当初は私も支援者の末席に加わっていたのだが，最近ではむしろ私のほうが頼りにしている．すでにベテランとなったお母さん達は頼もしい地域サポーターで，若いお母さんをエンパワメントしていただくための貴重な社会資源となっている．今では母子保健事業功労団体としての県知事表彰されるまでになった．

教育，住宅，福祉，医療，どれをとっても障がい児とその家族にとっては不安に満ちていて，家族で丸抱えするには荷が重過ぎる．法律では育児・介護は家族負担が当たり前かもしれないが，障がい児を支える覚悟は家族だけが背負わなければならないのだろうか．成長とともに地域で解決すべき問題が増えてくる．だからこそ，多様の支え方を用意しなければならない．

昨年わが国が批准した「障害者の権利に関する条約」の第19条に“自立した生活及び地域社会への包容”の項があり，障がい者が地域社会で生活する平等の権利を謳っている．2001年のICF採択以降，私たちは社会環境や社会モデルを大切にするようになってきたが，条約が示す共生社会の実現に向けての取り組みは始まったばかりである．障がい児とその家族の社会参加の促進には，パーソナルニーズを満たすだけでなく社会，未来にわが子を託す気持ちが持てるコミュニティ作りが不可欠である．そのためには，地域住民に障がいの理解を含めて気配りや思いやりの醸成が，就学，就労ともなれば制度上，政策上の改善等が求められている．これからも，条約が示す社会の実現に向けて，保健，教育，医療の間を行ったり来たりしながら，障がい児・者とその家族を地域でエンパワメントできる作業療法でありたいと思う．

会長行動（平成27年4月～6月）

4. 6. 平成27年度第1回福岡県作業療法協会 理事会 出席
場所：らそうむスポーツガーデン
4. 12. 日本作業療法士協会 第1回47都道府県委員会 出席
三協会（PT・OT・ST）合同士会長会議 出席
場所：TKP田町カンファレンスセンター
4. 18. 福岡県作業療法協会 保険委員会主催研修会 出席
場所：小倉リハビリテーション学院
5. 13. 公益社団法人 福岡県作業療法協会 平成26年度監事監査 出席
場所：公益社団法人福岡県作業療法協会 事務所
5. 29. NPO法人北九州すこやか住宅推進協議会 平成27年度通常総会・交流会 出席
場所：小倉リーセントホテル
5. 30. 平成27年度一般社団法人日本作業療法士協会定時社員総会 出席
場所：財団法人日本教育会館一ツ橋記念ホール
5. 31. 日本作業療法士協会 第2回47都道府県委員会 出席
都道府県作業療法士会連絡協議会 平成27年度総会 出席
場所：TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター
6. 7. 公益社団法人 福岡県作業療法協会 平成27年度定期社員総会 出席
平成27年度第2回福岡県作業療法協会 理事会 出席
場所：福岡県作業療法協会 事務所
6. 19. 第49回日本作業療法学会 出席
20. 場所：神戸ポートピアホテル・神戸国際展示場
- 21.

福岡県の皆さんと共に！

公益社団法人福岡県作業療法協会
副会長 座小田 孝安

この度、昨年末の公示に立候補し、平成27年5月30日に行われた日本作業療法士協会の定時社員総会で代議員による選挙を行い日本作業療法士協会の理事に選任されました。

福岡県作業療法協会員の皆様にはネット投票でご協力いただき誠にありがとうございました。23名の定数に対し29名が立候補しましたが、結果的にはネット投票のとおりに入選者が確定いたしました。47都道府県で会員数が一番多い福岡県からは大丸先生が理事を退任されてから2年間の空白がありました。

私も代議員として社員総会には出席して意見や質問は言わせていただきましたが、総会終了後いつも何となくもどかしさが残って（質問に対する回答に疑問が残り）他の都道府県の代議員の方と「あーでもない。こうでもない」と意見をぶつけていました。

今回、5年と言わず50年後の作業療法を見据えて協会活動を行っていききたいというメンバー数人と出会うことができ、故 吉田隆幸先生に「将来日本作業療法士協会の役員になれ！」と言われていたことも立候補に至るきっかけになりました。

今期の事業計画は前任の理事中心に立案されていますので実際には来期以降に意見が反映されることとなりますが、まずはスタートラインに立つことができほっとしています。いろいろ提案していききたいことはありますが、まずは日本作業療法士協会の公益法人化は進めていただきたいと思います。また、計算書類や資料作成を含めた事務局機能の強化（福岡県作業療法協会の方がしっかりしていると思います）をお願いしていくつもりです。他にも教育、広報、職域拡大などたくさんありますが少しずつテーブルに載せていけたらと思います。

もちろん福岡県の皆さんの意見を聞きながら日本作業療法士協会の活動に反映できたらと思いますので、県内で行われる事業で私に出会った時にはぜひ皆さんの特に若いご意見を聞かせて下さい。よろしくお願いします。

地域包括ケアシステム構築へ積極的に参画を

公益社団法人 福岡県作業療法協会
会長 志井田 太一

将来の人口動態や社会状況に応じ、「保健」、「医療」、「福祉」の領域では「地域包括ケアシステム」が提唱されています。これは、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供され、自助、共助、公助、互助（住民組織の活動等の助け合い）を組み合わせ、たとえ重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることができるように支援する将来に向けたシステム作りとなります。（図参照）

このシステム構築に向け、現在全国の都道府県では、市町村単位で「地域ケア会議の開催」、「新しい介護予防事業（総合事業）の創設」、「認知症施策の推進（新オレンジプラン）」などが粛々と進められています。

福岡県作業療法協会は、福岡県理学療法士会、福岡県言語聴覚士会と協同で、これら事業へ積極的に参画し、公益社団法人としての使命を果たしていく必要があります。

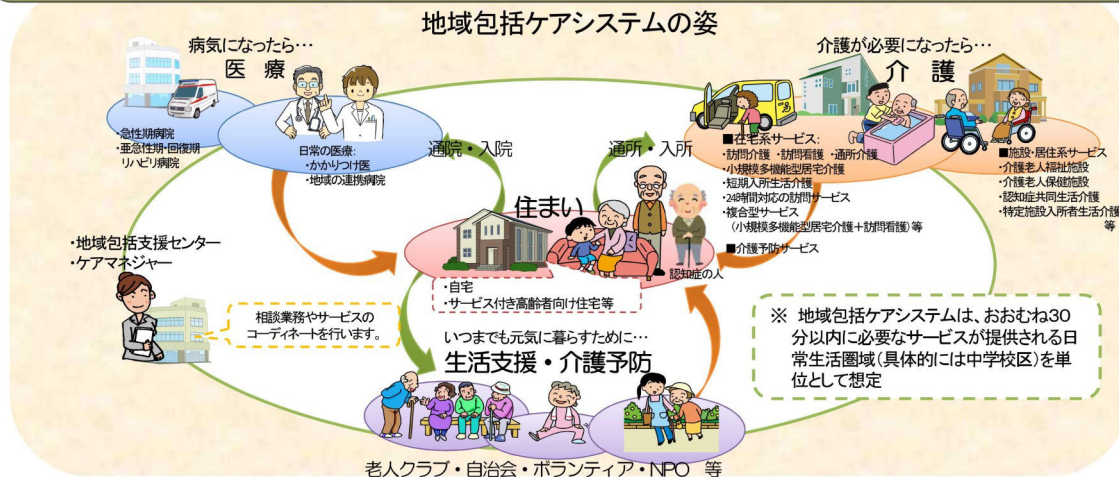
会員の皆さんは、市町村での「地域包括ケアシステム」に関する情報を収集し、各自が所属しているブロックの担当者と連絡を密に取り合って、地域で積極的に活動していただきたいと思います。

一方、個々のケースの課題解決に向けての考え方を整理するツールとして、「生活行為向上マネジメント（MTDLP: Management tool for daily life performance）」の手法が役立ちます。関連する研修会開催や、介護報酬の中での対応についての情報は、随時ホームページでお知らせしています。

これらの件についてのお問合せは、<http://www.fuku-ot.org/contact.html> まで。

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**必要があります。



平成27年度 介護報酬改定について

福岡県作業療法協会 保険委員会担当理事
医療法人柳育会 八女リハビリ病院 福田 裕樹

平成27年4月に介護報酬が改定されました。今回の改訂はマイナス2.27%、実質的にはマイナス4.48%となる大きな改定でした。特にデイサービスや特養などでは6%となり非常に厳しい改定となっております。

I：今回の介護報酬改訂について

今回の改訂の柱は3つです。

1) 中重度の要介護者や認知症高齢者への対応の更なる強化

①地域包括ケアシステムの構築に向けた対応

②活動と参加に焦点を当てたリハビリテーションの推進

→生活行為向上リハビリテーション・認知症短期集中リハビリテーションなど

③見取り期における対応の充実

④口腔・栄養管理に係る取組の充実

2) 介護人材確保対策の推進

3) サービス評価の適正化と効率的なサービス提供体制の構築

この中で作業療法士に大きくかかわってくる部分である1) の①および②について簡単にご紹介いたします。

①地域包括ケアシステムについて

地域包括ケアシステムとは「2025年（平成37年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービスを提供する体制」のことです。（厚生労働省HPより）このシステムには5つの構成要素があります。①介護 ②医療 ③予防の専門的サービスに加え、④住まい ⑤生活支援・福祉サービスが相互に関係し、連携することにより在宅生活を支えているとされています。またこのシステムを支えていくために「自助」「互助」「共助」「公助」といった視点で支え方を提示しています。

このシステムの構築には医療現場や介護現場だけでなく行政や地域住民すべての人の関わり、そして本人の努力が必要となります。

このシステムの実現に向けて私たち作業療法士はこの中で大きな役割を持つと考えられます。例えば地域ケア会議への参加や自立指向的なアプローチの実践など多くのことがあります。福岡県作業療法協会では積極的な働きかけを行っていきます。なお地域包括ケアシステムに関する資料は「厚生労働省ホームページ」→「政策について」→「政策一覧」→「福祉・介護」→「介護・高齢者福祉」→「地域包括ケアシステム」に詳細がありますので参考にしてください。

②活動と参加に焦点を当てたリハビリテーションの推進について

リハビリテーションは「心身機能」、「活動」、「参加」などの生活機能の維持向上を図るものでなくてはならないことについて、訪問・通所リハビリテーションの基本方針に規定されました。その中で今回、活動と参加に焦点を当てた新たな評価体系の導入として「生活行為向上リハビリテーション実施加算」が導入されています。また認知症の状態に合わせた効果的な方法や介入頻度・時間を選択できる報酬制度として「認知症短期集中リハビリテーション加算Ⅱ」が新設されています。そのほか訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションともに事業所の質を評価する社会参加支援加算やリハビリテーションマネジメントの強化としてリハビリテーションマネジメント加算（Ⅱ）新設されています。

厚生労働省は今までの調査の中で「心身機能」に偏った形で提供されていたリハビリテーションに加えて「活動」と「参加」に対するリハビリテーションをバランスよく提供すること、そしてマネジメントを行うことを求めているようです。特に生活行為向上リハビリテーションは作業療法士の得意分野であります。我々作業療法士の一人ひとりがしっかりと作業療法を提供していくことで、この期待に応えていかななくてはならないと考えています。一人ひとりの利用者に対し結果を出していくことが我々の将来のためにも必要なことです。

Ⅱ：作業療法士に関する主な変更点

＜訪問リハビリテーション＞

- ①基本報酬の見直し：302単位/回
- ②リハビリテーションマネジメント加算（Ⅰ）（Ⅱ）
 - ・リハビリテーションマネジメント加算（Ⅰ）：60単位/月
 - ・リハビリテーションマネジメント加算（Ⅱ）：150単位/月
- ③短期集中リハビリテーション加算：200単位/日
(退所日，認定日から3ヶ月以内)
- ④社会参加支援加算：17単位/日

＜訪問看護＞

- ①基本報酬の見直し：302単位/回

＜通所リハビリテーション＞

- ①基本報酬の見直し：
要介護者に対する報酬は増額しているが要支援者に対する報酬は減額となっている。
- ②リハビリテーションマネジメント加算（Ⅰ）（Ⅱ）
 - ・リハビリテーションマネジメント加算（Ⅰ）：230単位
 - ・リハビリテーションマネジメント加算（Ⅱ）：1020単位（6ヶ月以内）
：700単位（6ヶ月以降）

*リハビリテーションマネジメント加算要件の見直しと加算の新設
→訪問指導による加算はこの中に包括された。
- ③個別リハビリテーション実施加算・短期集中リハビリテーション実施加算
 - ・個別リハビリテーション実施加算：削除
 - ・短期集中リハビリテーション実施加算：110単位（3月以内）
- ④認知症短期集中リハビリテーション実施加算（Ⅰ）（Ⅱ）
 - ・認知症短期集中リハビリテーション実施加算（Ⅰ）：240単位/月（3月以内）
 - ・認知症短期集中リハビリテーション実施加算（Ⅱ）：1920単位/月（3月以内）
- ⑤生活行為向上リハビリテーション加算
 - ・開始月から3月以内：2000単位
 - ・3月超6月以内：1000単位
 - ・加算終了後減算：所定単位数の15%を減算
- ⑥送迎を行わないことに対する減算：片道47単位減算
- ⑦社会参加支援加算：12単位/日

簡単ではありますが、以上が今回作業療法士に関連する主な変更点です。紙面の関係上、詳しい要件などは厚生労働省ホームページにQ&Aも含めて記載されておりますのでご確認をお願いいたします。

URL：<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000080101.html>

福岡県作業療法協会保険委員会ではこれからも会員の皆様からの医療・介護保険に関する疑問などに対応するとともに最新情報を協会ホームページなど利用し発信していきたいと考えております。なお質問は協会ホームページの「お問い合わせ」からお願いいたします。

意志・感情を引き出し「活動」「参加」につなげる作業療法

～生活行為向上マネジメントを一緒に学びましょう～

社会医療法人 共愛会 介護老人保健施設あやめの里 作業療法士 都甲幹太
(日本作業療法士協会 生活行為向上マネジメント推進委員会 委員)

はじめに、読者の皆さんに質問です。

「今年、いちばん楽しかったこと、印象に残っていることは何ですか？」

旅行のシーンでしょうか？家のなかのシーンでしょうか？はたまた、仕事のシーンでしょうか？それとも・・・きっと、お一人おひとりの中で、様々なシーンが思い浮かんでいることでしょう。そして、それはお一人おひとり、異なっていることでしょう。でも、きっと、共通して言えることは、必ず「生活行為」が含まれているのではないのでしょうか。

本稿では、生活行為向上マネジメント (Management Tool for Daily Life Performance ;以下MTDLP) を福岡県の会員の皆様が、身近に感じ、使いたい、学びたいと感じていただけることを目的に、なるべく読みやすく、分かりやすく、書き進めていこうと思います。

そこで、はじめに、MTDLPの概要とプロセスについて示し、その後、私が勤務する通所リハのご利用者に対してMTDLPを軸に支援したエピソードを紹介します。エピソードの最中に、MTDLPの視点や使用する際に考えていること、使用するメリットなどについて解説を加えていきます。最後に、いま、作業療法士が求められている地域包括ケアシステムにおける使命について記したいと思います。

なお、本稿は、あくまでもMTDLPの“流れ” “エッセンス”をお伝えしていくものであり、詳細な概論や各シートの使用方法などの“How to”は、福岡県作業療法協会等が開催している「生活行為向上マネジメント研修会」への参加や日本作業療法士協会が発行している「作業療法マニュアル57生活行為向上マネジメント」、日本作業療法士協会のホームページの生活行為向上マネジメント関連ページなどを用いて、詳しく勉強していただければと思います。

【生活行為向上マネジメントの概要】

私たちの生活は、その人にとって意味のある生活行為の連続から成り立っています。そして、生活行為の連続から満足感や充実感を得て、健康であると実感しています。この、人にとってあたり前の生活行為を理解することがMTDLPの基本的な考え方です。MTDLPは、平成20年度より、日本作業療法士協会が厚生労働省老人保健健康増進等事業により開発したものです。皆さんもよく耳にしている「人は作業することで元気になれる」をキャッチフレーズに、国民に分かりやすく、地域

包括ケアに貢献できる作業療法の形を示し、いま、全力で普及、推進しています。

生活行為とは、人が生きていくうえで営まれる365日24時間連続する生活全般の行為です。(図1) MTDLPは、対象者の生活における様々な生活行為に焦点を当てることで、支援目標を共有することを可能とし、対象者が自分の回復に積極的に関与できるように構成されています。また、①対象者を、心身機能の側面から理解するのみではなく、「生活する人」として活動から参加まで見据える、②対象者の生活を、過去から現在そして将来までの「連続している生活」と理解し支援する、③対象者の個人の作業からはじまり、地域の社会資源の活用まで幅広く捉える「作業の拡がり」という3つの包括的視点を重視しています。

MTDLPを活用することにより、作業療法士自身がこの3つの視点を持ち、国民一人ひとりが生きがい・役割を持って暮らすことができる地域の実現を、対象者自身と対象者を支援する人々とともに目指します。



(図1) 生活行為の考え方

【生活行為向上マネジメントのプロセス】

MTDLPは、対象者が大切にしている、本人にとって意味のある生活行為に焦点を当て、その遂行を妨げている要因や強みを分析し、支援方法を検討します。これらの過程を「生活行為聞き取りシート」、「生活行為アセスメント演習シート」、「生活行為向上プラン演習シート」といった基本ツールを用いて示せるようにしています。また、臨床場面で利用しやすいように、これらのシートが一覧できる「生活行為向上マネジメントシート」が開発されています。(※各シートは日本作業療法士協会HPからダウンロードができます)

MTDLPのプロセスは、はじめに、対象者、ご家族の希望・想い・目標を聞きとります。つぎに、それを実現するために、妨げている要因と強みのアセスメントを「心身機能・身体構造」「活動・参加」「環境」に分類して行い、それらを基に本人のしたい生活行為に対する予後予測、見立てを行い、作業療法士が考える達成可能な目標を設定します。その目標に対して、対象者と合意形成を築きます。その上で、それを達成するために、心身機能に対するアプローチとして「基本的プログラム」、具体的生活行為のシミュレーションを伴う活動と参加へのアプローチとしての「応用的プログラム」、対象者が望むその実践の場となる環境で対象者やその環境そのものに働きかけるための「社会適応プログラム」を計画し、実践していきます。

また、MTDLPでは、対象者が医療機関等から退院した後も、在宅でも生活行為の向上に向けて継続した支援ができるように「生活行為申し送り表」も準備しています。在宅においても、対象者がしたいと思っている生活行為が可能となるよう、支援が継続して提供されることが重要です。

以上のとおり、MTDLPは、なにも特別な考え方ではありません。作業療法士のひとつの臨床思考過程を“見える化”したものであり、それらを対象者やご家族、他職種、地域の方と共有するものです。

【諦めかけていた料理を再開した敏江さん】

では、私が勤務する通所リハで、ある女性に対してMTDLPを用いて支援したエピソードを紹介します。エピソードを通して、前述したMTDLPの概要やプロセスを、より具体的に解説していきたいと思います。

1. 対象者の希望を聞き取る

敏江（仮名）さん（70歳代 女性）は、脳梗塞発症後、右半身に軽度の麻痺が残ったまま、5ヶ月間、病院でリハビリを受けました。そして、4点杖と杖をつきながら歩き、身の回りのことや食器洗いなどはなんとか自分で出来るようになり、一人で暮らす家に退院しました。病院では、敏江さんの希望であった料理の練習も2回行いました。しかし、退院後、遠方で暮らす息子さんが、「危ない！」と、家のガスを止めてしまいました。敏江さんは、息子さんに心配はかけられないと、家で料理をすることを諦めました。

通所リハを利用開始した敏江さんに、生活行為聞き取りシートを使用して、「リハビリをして、何か出来るようになりたいことはないですか？」と尋ねたところ、「何もないよ。」という答えが返ってきました。私が「料理はできるようになりたくないですか？」と尋ねると「右手も動きにくいし、歩くのもやっとだから。息子もダメと言っ

て、ガスも止めているしね。退院してからしてないし、料理は出来ないよ。弁当温めて食べたりしているから大丈夫。」と答えました。

（解説）

MTDLPは、生活行為聞き取りシートを用いて、対象者がしたい生活行為、望む生活行為を聞き取り、生活行為の目標を明らかにするところから始めます。つまり、対象者の希望、想いを聴取します。希望が具体的に思い浮かばないときは、興味関心チェックシートを使用し、生活行為がイメージしやすい状況で聴取します。この時、注意しなければならないのは、ただのチェックに終わってはならないということです。希望がある生活行為について、想いや背景をしっかりと引き出しながら聞き取り、共有することが大切です。なぜ、その生活行為がしたいのか、真の目的は、そこに隠れていることが多々あります。

さて、皆さんは、日々の作業療法を行うとき、ご本人の希望（やりたいこと、困っていること、やる必要があると思うことなど）を聞き取れているでしょうか？その上で、目標の合意形成は行えているでしょうか？「そんなの当たり前ではないか！」とお叱りを受けてしまうかもしれません。しかし、油断すると、いつの間にか作業療法士の偏った価値観で、目標やプログラムを決めつけたりしてはいないでしょうか？私は、臨床のなかで、ここがいちばん難しいと感じています。そして、作業療法を展開していく上で、とても重要なかぎだと考えています。

どのように本人の想いを聞きだすか？もしかすると、本人さえも気がついていない想いを引き出さないとはいえないかもしれません。こればかりは、一筋縄ではいきません。多くの場合、対象者が最初に答える内容は、「手足を動かようにしたい」などの心身機能面の内容や、「歩きたい」などと「答えた方がいいと思う生活行為」や「しなければならない生活行為」が挙げられます。そのため、対象者が「本当にしたい生活行為」や「家に帰った後を想定した生活行為」については挙がりにくいことを、私たちは自覚した上で、支援しなければなりません。対象者の職業歴や家族構成、家庭での役割、趣味、楽しみにしていたことなど、生活歴を知り、対象者の立場になって考える、推し量る姿勢が大切です。それを踏まえて、聞き取り、アセスメントをしていかななくてはなりません。この積み重ねが、対象者やご家族との信頼関係の構築につながるのではないのでしょうか。

2. 真の想いを引き出す

数日経ったある日、敏江さんに、家で何をして過ごしているのかを尋ねました。すると、「折り紙をしているよ。でも最近はしてないけどね。」と答えました。私は、「どうして（好きでもない）折り紙をしていたのですか？」と尋ねまし

た.すると、「家で一人だし.何かしないといけないと思ってね.でも,好きじゃないと続かないね.」と恥ずかしそうに笑いながら,しかし,どこかもの悲しい表情で答えました.

敏江さんは,一人暮らしは送ることが出来ます.退院後の転倒ありません.通所リハに週2回通い,新しい友人もできました.ヘルパーも家事を手伝ってくれます.訪問リハビリも受けています.以前からの友人も,お菓子や食べ物などを持ってきて,家に訪れてくれます.家族とは離れて暮らしていますが,毎日,電話で話しています.ただ,以前のような自分ではないよと感じ,必死に“自分”を取り戻そうと,好きでもない折り紙に没頭しようとしたのかもしれません.しかし,折り紙は続きませんでした.

その数日後,改めて,私は,敏江さんに,「いま,家で料理をしてみたくないですか?」と尋ねました.すると,以前と同様の理由で断ててきますが,私と少し話していると,「仕方ないよね.本当はしたいけど.」と答えました.私は,「出来ることなら料理がしたい」という敏江さんの想いを確認しました.

(解説)

皆さんは,敏江さんのように,やりたい想いがある生活行為に対し,できない理由ばかりを挙げて,諦めてしまっている場面を経験したことはないでしょうか?ご家族の希望を優先し,本人も家族のことを思い,諦めてしまっている場面を経験したことはないでしょうか?そのうち,本人さえ

も,自分自身の真の想いに気がつかなくなっている対象者を経験したことはないでしょうか?

本人の希望をすぐに聞き出し,作業療法に結びつけられれば良いのですが,前述したとおり,スムーズにいくケースは多くはないかもしれません.敏江さんのケースでも,敏江さん自身が退院直後に,料理をするという気持ちは持っていなかったように思います.つまり,敏江さん自身が真の想いを認識するための時間,支援が必要だったのかもしれません.

このように,対象者が日々している生活行為やその時の表情,仕草などから,本人も無意識の想いをくみとることが大切です.そして,会話などを積み重ね,本人に意識化させていき,本人が望む生活行為や暮らしに関する関心,意欲を高めながら,合意形成を築いていきます.

3. 「したいけど・・・」を「できるかも!」へ変えるには“強み”を意識させる支援が重要

敏江さんの料理をしたいという想いを確認したものの,料理をすることに対しては,消極的になっています.そこで,生活行為アセスメント演習シート(表1)を使用して「料理がしたいけど・・・」という想いから「料理ができるかも?」と思ってもらえるように,働きかけることにしました.敏江さんは,右手に軽い麻痺はあるものの,折り紙がなんとかできるほどの両手動作は行えます.また,ガスは止められていますが電子レンジで弁当などのあたためや,食器洗いもできて

相談者: 敏江さん

生活行為アセスメント演習シート

生活行為目標		料理がしたい。	合意した目標	自宅でシリコンスチーマーで料理をする。 (息子さん帰った時に,料理をする)
		心身機能の分析 (精神機能,痛み・感覚,神経筋骨格・運動) 活動と参加の分析 (運動・移動能力,セルフケア能力) 環境因子の分析 (用具,環境変化,支援と関係)		
生活の行為を妨げている要因		右片麻痺 バランス能力低下	退院後,料理を実施していない。 物を持つての歩行は長距離不安定さあり。	独居,息さんが遠方に住んでいる。 息さんが料理することにやや否定的 ガスが使えない。(止めている)
生活行為目標達成可能な理由と根拠	現状能力(強み)	知的機能は良好 右手に麻痺はあり,握力は弱く,巧緻動作(細かな動き)はやや拙劣だが,両手動作は行える。	日常生活動作は入浴以外自立している。 電子レンジを使用して,惣菜などを温めている。 短距離であれば,物を持つての歩行は可能。 食器洗いなどは自立している。 折り紙を実施できている。 入院中,料理をして成功している。	定期的に買い物に行って,遊びに来てくれる友人がいる。 息子さんに助けてもらいながら,コンビニの配達サービスを使っている。 (毎日電話している) デイケア,ヘルパー,訪問リハを利用している。
	予後予測	バランス能力が低下しており,立位での作業では転倒のリスクはあるが,知的機能は良好で危機意識もあるため,バランスの練習や実際の練習などを通して,どのような状態になると転倒しやすいのかなどを経験・指導ができ,学習可能なことから,転倒は十分に回避できると思われる。また,右手も麻痺はあるが,右手を使用していくことで実用性は高まることが予想される。	退院後,料理を実施していないことから,自宅で料理をすることに対して少し不安があるようだが,野菜を切る動作などは麻痺のある右手を使用して行っており,環境を整えて,実際の料理の経験を数回すれば,自信もつき,自宅での料理も可能になると思われる。 また,自宅での食器洗い時も転倒などなく,作業遂行出来ていることから,料理時の転倒リスクも低いと思われる。	ガスは使えないが,電子レンジを使用したシリコンスチーマーであれば,十分に料理は行えると思われる。好奇心旺盛の為,デイケアでシリコンスチーマーを使用した料理の練習を行えば,抵抗なく行えることが期待できる。また,食材も友人や家族(コンビニ配達)・ヘルパー(買い物支援)の協力でそろえることが出来る。固い食材などは,事前にヘルパーに切ってもらおうと良い。また,必要に応じて訪問リハでの料理の練習が自宅で行える。

表1. 生活行為アセスメント演習シート

おり、退院後は転倒なく過ごすことができている。さらに、料理に必要な買い物も、ヘルパーや息子さんが注文して届くコンビニ配達などを利用して行えています。その上で、料理をすることに對して、予後予測、見通しを丁寧に伝えました。そして、私が立てた「シリコンスチーマーで料理をする」という目標に對して、「やってみようかな？教えてくれる？」と気持ちの変容がおこり、目標の合意に至りました。

(解説)

高齢者や障害者の多くの方は、したいけど行えない生活行為のできない理由は、私たちが伝えなくても、ご自身で意識されています。反対に、できる見込みがある生活行為の可能性や根拠については、目が向けられず、諦めているケースが多いように感じます。つまり、作業療法士自身はできる見通しを感じているにもかかわらず、うまく伝えられずに、ご本人は目標とする生活行為に對して消極的になっており、うまく実生活に結びつけられないケースを多く経験します。

そのギャップを埋めるために、生活行為アセスメント演習シートを用いながら、目標に對する予後予測、見通しを作業療法士と対象者、家族、他職種、まわりの人たちで共有することが大切です。アセスメント表には、「心身機能・構造の分析」「活動と参加の分析」「環境因子の分析」それぞれに分けて、遂行に支障をきたしている要

因、遂行する上で本人が持っている“強み”の分析を行う欄が設けられています。この時、作業療法士として、大切にしなければならない視点は、強みをいかに多く挙げられるかだと考えています。そして、“強み”を生かした予後予測を立て、作業療法士の考える達成可能な目標を設定します。対象者の方には、これらの一連の流れを丁寧に説明し、目標の合意を得ることが、「したいけど・・・」を「できそう」へ変える、大切な第一歩だと考えています。

4. 生活行為を「暮らし」「日常」に根づかせ、馴染ませるためのプラン

「シリコンスチーマーで料理をする」という目標に對して生活行為プラン演習シートを用いて支援の計画を立てました。(表2)両手動作の練習、物を持つての歩行などの練習に加えて、実際にデイクアで料理をする計画をしました。実際に料理をしてみると、器用に両手を使いながら、野菜も切れ、電子レンジをしっかりと使って、はじめてのシリコンスチーマー料理ができました。実施後、「おいしいですよ。これなら家でできそうですね!」と敏江さんに伝えると、「意外とおいしいものやね。これなら家でもやれそうや。」と笑顔で答えました。そこで、訪問リハビリで、自宅で料理を行うように依頼して、動作の練習をしてもらいました。また、かぼちゃなどの固い食材

生活行為向上プラン演習シート

合意した目標	生活行為工程分析		基本的プログラム	応用的プログラム	社会適応プログラム
自宅 (息子さん が帰った時に、料理をする)	企画準備力 PLAN	達成のためのプログラム	①上肢機能訓練 ②歩行訓練、バランス訓練	①作りたいものの材料はどのようにしたら手に入るか、確認する。 (コンビニの配達で済むか?) ②野菜などを包丁で切る練習 ③物を持つての歩行(短距離) ④デイクアでシリコンスチーマーを使って料理をする練習 (調理・移動・電子レンジの操作)	①自宅で訪問リハで実施 ②ヘルパーに依頼ごとを伝える。(買い物・固い物を切る動作など) ③料理に必要なもの、料理した経過、結果を息子さんに報告する ④息子さんと材料と一緒に買いに行き、料理をする。
	実行力 DO	本人	①②OTと一緒にやる。 自主的にやることは、自主訓練で実施する。	①～④デイクア利用時に実施 デイクアで、料理したことを家族に伝える。	①実施した経過、結果を息子さんに報告する。 ②固い物などは何だったら難しいのかなどを把握する。(OTと相談、実際に実施してみても動作確認、不安であればヘルパーと一緒に切ってみるなど) ④息子さんと一緒に買い物にいき、料理することを提案する。誘う。
	検証完了 SEE	家族		本人から、料理をしている状況の話などを聞いてもらう。	①コンビニ配達が必要な時は、注文する。 ②電話で状況を確認する。 ③一緒に買い物に行き、料理の状況を確認する。
		支援者	OTがプログラム作成、自主訓練の指導を行う	①～④OTや介護福祉士とともに実施する。	①デイクアスタッフ、訪問リハスタッフと実施教協を共有する ②ヘルパーは本人の依頼に對して支援する。(特に固い物を包丁で切るなど) ④息子さんが帰省時期を把握し本人に料理をしてみるように促す。
達成			■達成 □変更達成 □未達成(理由:) □中止		

表2. 生活行為向上プラン演習シート

を切ることは難しかったため、そのような時は、利用しているヘルパーを使って切ってもらうように提案しました。このような一連の支援によって、敏江さんは、自宅でのシリコンスチーマーを使って、肉野菜蒸しやすき焼き、そうめんなどの料理が定着しました。

(解説)

「筋力があってもテニスはうまくならない」基本的な訓練を幾ら積み重ねても、機能面が向上しても、実際のテニスに結びつかなければ意味はありません。では、どうすればよいのでしょうか？答えはシンプルです。自分にあったラケットを選択して使用し、テニスの練習、実際の試合を積み重ねていけば良いのです。テニスは一つの例え話ですが、普段の対象者の方々がしたい生活行為も同様に支援しなければなりません。実際の環境で、もしくは近い環境で、動作を行うことは、作業療法では重要になってきます。しかし、このシンプルな支援を、日々の臨床で私たちはどれだけ実践できているのでしょうか？その上で、注意しなければならないのは、実際の生活行為の練習をただ行えば良いというものではありません。生活行為を工程分析すると、生活行為を実施するために、「いつ、どこで、誰と、何を、どのように」行うのかを企画したり、準備する「企画・準備力」、実際に実施をするときに必要な「実行力」、生活行為を遂行しながら、うまく進んでいるかを検証し、間違いや、より良いやり方に途中で気付いて修正したり、しっかりと完了できたり、次の遂行につなげることができる「検証・完了力」に分類されます。対象者の「したい生活行為」を日々の暮らしや日常に根づかせ、馴染ませるためには、「企画・準備力」と「検証・完了力」に力を入れなければならないと考えています。つまり、ただの動作練習や評価に終わることなく、本人の気持ちを作っていく支援と出来たという気持ちの振り返り、次にやってみよう、やれるかもしれないという、気持ちの後押しが大切なのです。

MTDLPの生活行為プラン演習シートには、それらの支援が抜けないように、生活行為工程分析を行い、それを踏まえて実際のプランを立案します。また、プランも作業療法士だけのプランではなく、本人にやってもらうこと、家族にやってもらうこと、支援者（他職種）にやってもらうことなど、「誰が」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」支援するのかが細かく分類されています。他職種や地域の資源、あらゆるものと手を取り合い、プランニングしていき、生活行為を暮らしや日常に根づかせ、馴染ませていかななくてはなりません。

5. 生活行為の波及効果

敏江さんは、シリコンスチーマーでの料理が日課となりました。遠方で暮らす息子さんに電話を

するたびに、料理をした際は、その話をしました。数ヶ月後、私が提案し、敏江さん自身から息子さんに「電磁調理器が欲しい」と頼むように提案しました。しかし、息子さんは、「そんなに慌てなくてもよいよ。」と、購入に対して、反対しました。

その後、ある日、私は敏江さんの息子さんが帰省してくることを知りました。そこで、敏江さんに、「外食もいいけれど、一度、息子さんに手料理を食べさせてあげたらどうですか？」と提案をしました。

そして、息子さんが帰省すると、一緒に買い物に行き、シリコンスチーマーで料理を振舞いました。次の利用日、敏江さんは嬉しそうに私にこのように報告をしてくれました。「息子に料理を作ってあげたよ。そしたら、『おいしいね、お母さん。上手にできるやん』って言ってくれたよ。そして、『電磁調理器買ってあげるよ』って言われたんよ。」

敏江さんは、いま、電磁調理器で料理をしています。

(解説)

今回、MTDLPを使用して、敏江さんの料理をしたいという想いを基に、支援をしました。その結果、シリコンスチーマーでの料理にとどまらず、電磁調理器での料理にまで生活行為を拡げることができました。そして、息子さんに料理を作ってあげるといふ、母親としての大切な役割も再獲得することができました。

生活行為は、“意志”や“感情”を伴うものです。この意志や感情を引き出しながら作業療法を行うことで、「心身機能」から「活動」へ、「活動」から「参加」へと暮らしが拡がり、お一人ひとりの暮らしが形作られていきます。

【いま、地域包括ケアシステムのなかで作業療法士ができること】

地域包括ケアシステムにおいて、作業療法士には大きな期待が寄せられています。しかし、「チャンスはピンチ」であることも意識しておくなくてはなりません。いま、作業療法士は試されている時でもあります。それを踏まえ、最後に、いま、私が考える地域包括ケアシステムのなかにおける作業療法士の使命について記します。

その使命とは、「地域における生活行為のつなぎ役」です。

ひとつのポイントとして、今年4月の介護保険改定では、通所リハにおいて「生活行為向上リハビリテーション加算」が新設されました。本加算は、活動、参加に焦点を当てた支援をもとに、通所リハの卒業、つまり、さまざまな地域資源への移行という視点が念頭に置かれています。そして、本加算の計画書などには、MTDLPのエッセンスを多く感じ取ることができます。「それって、

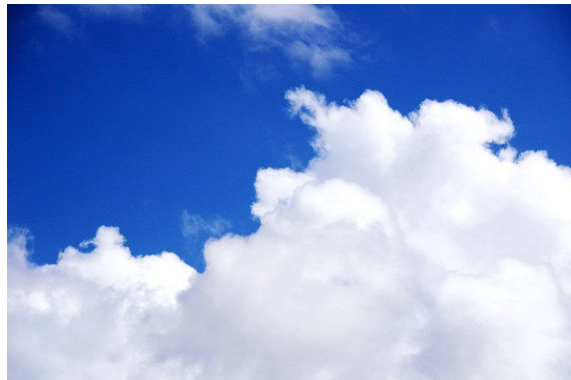
通所リハの加算でしょ？病院で働いているので関係ないよ」と思っている方はいらっしゃいませんか？そうではありません。

大切な点は、例えば、病院から在宅（通所リハ）に移行する際に、いかに生活行為目標や見通しを、双方で共有できるか？にかかっています。同様に、通所リハの利用がなくても、病院の作業療法士から、ご本人やご家族、ケアマネジャー、他サービス提供者、地域住民などと、「生活行為に基づく目標」と「見通し」を伝達、共有することができれば、対象者の地域移行支援は、よりスムーズになるはずです。

少し難しく書きましたが、大切なのは、“対象者の想いをつなげていく”というシンプルな作業療法なのかもしれません。通所リハや加算に関係なく、これらの考え方、動き方が基本となると、地域包括ケアにおける作業療法士の使命を少しずつ果たしていけるのではないのでしょうか？それらを推進するためのひとつの考え方、ツールがMTDLPなのです。

暮らしには、生活行為があふれています。地域には、生活行為があふれています。だからこそ、私たち作業療法士は、生活行為を支援して、対象者を地域や暮らしにつなげ、対象者の世界を拓ける作業療法を実践していかななくてはなりません。

さあ、「人は作業することで元気になれる」を地域に根づかせていきましょう。



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学大学院

福岡キャンパス（福岡県福岡市）

大川キャンパス（福岡県大川市）

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻

作業療法学分野／理学療法学分野／リハビリテーション学分野／言語聴覚分野／看護学分野／ナースプラクティショナー養成分野／助産学分野／助産学（福岡）分野／視機能療法学分野／福祉支援工学分野／放射線・情報科学分野／生殖補助医療胚培養分野

医療福祉経営専攻

医療福祉経営学分野／診療情報管理・分析学分野／医療福祉国際協力学分野／先進的ケア・ネットワーク開発研究分野／医療福祉連携学分野／医療福祉ジャーナリズム分野

臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻

作業療法学分野／理学療法学分野／リハビリテーション学分野／言語聴覚分野／看護学分野／助産学分野／視機能療法学分野／福祉援助工学分野／放射線・情報科学分野／生殖補助医療胚培養分野／医療福祉経営学分野／診療情報管理・分析学分野／医療福祉国際協力学分野／先進的ケア・ネットワーク開発研究分野／医療福祉連携学分野／医療福祉ジャーナリズム分野／医療福祉心理学分野

薬科学研究科

修士課程

生命薬科学専攻

薬学研究科

博士課程

医療・生命薬学専攻



- ◆ 社会人の方も働きながら無理なく受講できます
多くの授業を平日の夕方と土曜日に開講
- ◆ 一流教授陣の講義をリアルタイムで受講できます
各キャンパスを結ぶ同時双方向遠隔授業を実施
- ◆ 研究者志向の方のニーズにも対応できます
大田原キャンパスに充実の研究施設を整備
- ◆ 長期履修制度を導入しています
あらかじめ3年間での計画的な長期履修の申請が可能
※専攻、分野によっては、受講できるキャンパスが限られているものもございますので、詳細につきましてはお問い合わせ下さい。
※短大卒・3年制専門学校卒で進学可能（修士課程）

分野・領域についてのお問い合わせ・資料請求先

福岡キャンパス

〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜2-4-16
TEL : 092-407-0434
FAX : 092-407-0474
E-mail : fukucamp@iuhw.ac.jp

大川キャンパス

〒831-8501 福岡県大川市榎津137-1
TEL : 0944-89-2000
E-mail : oocamp@iuhw.ac.jp

HP : <http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>

平成27年度 臨時 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 開催日 : 平成27年6月7日(日) 10時00分～10時30分
- II. 場所 : 公益社団法人福岡県作業療法協会 事務所
- III. 理事総数 : 19名
- IV. 出席理事数 : 15名
- V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋, 佐藤稔,
田中真純, 榎本孝史, 手島智康, 大田登志樹, 平岡敏幸,
玉野和男, 有久勝彦, 福田裕樹, 濱本孝弘, (以上, 理事)
吉田秀樹, 原口健三 (以上, 監事)
田邊慎一, 藤崎実知子, 鐘ヶ江秀俊 (以上, 事務局)
- 欠席者氏名 : 深町晃次, 棕学美, 沖雄二, 轟木健市 (以上, 理事) (敬称略)

VI. 審議事項

1. 平成26年度事業報告及び収支決算について(中川事務局長)

平成26年度事業報告及び収支決算について報告。原口監事・吉田監事より平成27年5月13日に
監事監査を行い、運営状況を確認したと報告。 →承認

VII. 次回開催日

平成27年度 第2回理事会

日時 : 平成27年6月7日(日) 12:30～

場所 : 公益社団法人福岡県作業療法協会事務所

平成27年度 公益社団法人福岡県作業療法協会 定期社員総会議事録

I. 開 催 日 : 平成27年6月7日 (日)

II. 時 間 : 11時00分～12時00分

III. 場 所 : 公益社団法人福岡県作業療法協会事務所

IV. 正会員数 : 2,586名 (平成27年3月31日現在)

V. 代議員総数 : 41名

VI. 本総会出席代議員数 : 本人出席 24名 書面評決者 13名

VII. 出席者氏名 : <代議員本人出席>

志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋
田中真純, 許山勝弘, 濱本孝弘, 手島智康, 福田裕樹
大田登志樹, 平岡敏幸, 佐藤稔, 玉野和男, 榎本孝史, 有久勝彦
田中聡, 深井信吾, 澤田剛, 中島純二
原野裕司, 靱井剛士, 矢野浩二, 黒木勝仁

<代議員書面評決者>

青山克実, 棕学美, 沖雄二, 町田真一朗, 原田靖子
藤田曜生, 熊添潤一, 深町晃次, 轟木健市, 中原徳郎
原田布美子, 渡辺友基, 古賀大亮

<監事>

原口健三, 吉田秀樹

<事務局>

鐘ヶ江秀俊, 藤崎実知子

VIII. 議長, 書記選出 :

中川昇氏が開会を宣言し, 定款第23条に基づき出席代議員の中から議長に志井田太一氏が選出された. ついで議長の指名により書記に鐘ヶ江秀俊氏, 藤崎実知子氏が選出された.

IX. 議事の経過の要領及びその結果

議長は, 議事運営委員長の大田登志樹氏より報告をうけ, 上記のとおり定足数に足りる代議員の出席があったので本総会は成立した旨を報告した.

ついで議長は定款第27条の規定により, 議事録署名人に田中聡氏, 靱井剛士氏を任命した.

議事録署名人 : 田中聡 (リハデイ吉木)

靱井剛士 (健康リハビリテーション内田病院)

第1号議案：平成26年度事業報告

第1号議案，平成26年度事業について志井田太一代表理事より報告があった。

また，吉田秀樹監事，原口健三監事より監査報告があった。

議決の結果過半数の賛成にて承認された。

第2号議案：平成26年度収支決算

第2号議案，平成26年度収支決算について中川昇氏より報告があった。また，吉田秀樹監事，

原口健三監事より監査報告があった。議決の結果過半数の賛成にて承認された。

第3号議案：新任理事承認

第3号議案，新任理事の承認について中川昇氏より，平成27年4月9日付けで公示した役員の欠員（理事1名）に伴う臨時選挙において許山勝弘氏が無投票当選となったことの報告があった。

議決の結果過半数の賛成にて承認された。

X．議長団解任

X I．閉会の言葉

以上の議事進行をもって総会が終了した。

以上の決議を明確にするために，本議事録を作成し，定款27条により議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

平成27年6月7日 公益社団法人福岡県作業療法協会 定期社員総会

平成27年度 第2回 公益社団法人福岡県作業療法協会 理事会議事録

- I. 開催日 : 平成27年6月7日(日) 12時30分～14時30分
II. 場所 : 公益社団法人福岡県作業療法協会 事務所
III. 理事総数 : 20名
IV. 出席理事数 : 16名
V. 出席者氏名 : 志井田太一, 竹中祐二, 座小田孝安, 中川昇, 白山義洋, 佐藤稔,
田中真純, 榎本孝史, 手島智康, 大田登志樹, 平岡敏幸,
玉野和男, 有久勝彦, 福田裕樹, 濱本孝弘, 許山勝弘(以上, 理事)
原口健三(以上, 監事)
田邊慎一, 藤崎実知子, 鐘ヶ江秀俊(以上, 事務局)
欠席者氏名 : 深町晃次, 椋学美, 沖雄二, 轟木健市(以上, 理事)(敬称略)

VI. 審議事項

1. 平成27年度現職者選任研修会講師の承認について(白山教育部担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

深町晃次氏(九州栄養福祉大学)
松本信雄氏(水戸病院)
青山克実氏(麻生リハビリテーション大学校)
榎本孝史氏(北九州リハビリテーション学院)

2. 身障分野研修会講師の承認について(白山教育部担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

吉田誠治氏(株式会社夢企画代表取締役 一級建築士)
田中真純氏(株式会社らそうむ代表取締役 作業療法士)
物部加奈代氏(久留米リハビリテーション病院 社会福祉士・介護支援専門員)

3. 地域分野研修会講師の承認について(白山教育部担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

奥園秀史氏(福岡県庁保険医療介護部高齢者支援課)
西上忠臣氏(NPO法人ちゃんくす作業療法士)

4. 第20回福岡県作業療法学会基調講演及びセミナー講師の承認について(有久学術部担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

宮崎宏興氏(特定非営利活動法人いねいぶる理事長 作業療法士)
福田久徳氏(小倉リハビリテーション病院 作業療法士)
益満美寿氏(熊本保健科学大学 作業療法士)
長谷麻由氏(国際医療福祉大学 作業療法士)
松浦篤子氏(荒尾こころの郷病院 作業療法士)

5. 生活行為向上マネジメント事例発表研修会開催及び講師承認について

(濱本保健福祉部担当理事)

生活行為向上マネジメント事例発表研修会を今年度2回開催(9月, 12月～2月の2回. 参加者多数の場合は3回目を開催)する. 以下の講師依頼について報告.

→承認

宮本香織氏(株式会社らそうむ 作業療法士)
都甲幹太氏(あやめの郷 作業療法士)

6. 筑豊ブロック研修会講師の承認について(平岡筑豊ブロック担当理事)

以下の講師依頼について報告.

→承認

上城憲司氏(西九州大学リハビリテーション学部 作業療法士 認知症について)

7. 北九州ブロック研修会講師の承認について（玉野北九州ブロック担当理事）

以下の講師依頼について報告.

→承認

青山克実氏（麻生リハビリテーション大学校 作業療法士 人間作業モデルについて）

8. 北九州ブロック研修会講師の承認について（玉野北九州ブロック担当理事）

以下の講師依頼について報告.

→承認

久野真矢氏（帝京大学 作業療法士 認知症について）

9. 正会員の入会について（中川事務局長）

平成27年4月4日から5月31日までの間に49名の入会があった.

→承認

VII. 協議事項

10. 市町村事業の開催状況、および会員推薦状況の実態把握について（志井田代表理事）

市町村事業の開催状況及び会員推薦状況の実態把握についてブロック単位で調査を進め把握した情報を渉外部で集約する.

→承認

11. 福岡県作業療法協会代議員および役員改選に向けた準備について（志井田代表理事）

平成28年4月に福岡県作業療法協会代議員および役員改選があることが報告され準備や確認事項などについて提案.

→承認

12. 九州理学療法士・作業療法士合同学会のあり方について（志井田代表理事）

九州理学療法士・作業療法士合同学会のあり方について実施主体、企画・運営等について平成27年11月に開催される理学療法士・作業療法士合同士会長会議までに意見を集約する.

→承認

13. 第20回福岡県作業療法学会準備委員の増員について（有久学術部担当理事）

以下のように増員する.

→承認

堺純孝氏（三池病院 作業療法士）

14. 第20回福岡県作業療法学会の印刷業者選定について（有久学術部担当理事）

2社に依頼した見積もり等を検討. 精巧印刷株式会社へ依頼.

→承認

15. ジャーナル「作業療法・福岡」第14号の査読委員増員について（有久学術部担当理事）

以下のように増員する.

→承認

松崎理佐氏（ごう脳神経外科クリニック）

四元孝道氏（九州栄養福祉大学）

鎌田陽之氏（介護老人保健施設ひまわり園）

松本信雄氏（緑風会水戸病院）

16. 福岡県作業療法協会「表彰制度創設」の提案について（手島規約委員会担当理事）

県内で作業療法の発展に貢献した会員の功労に報いるために、県協会独自の表彰制度を創設する.

→承認

17. 生活行為向上マネジメント普及啓発における助成の検討について（濱本保健福祉部担当理事）

日本作業療法士協会の助成を受けるために必要な事務対応など確認した上で受ける.

→承認

18. 地域ケア会議・地域リハビリテーション活動支援事業など市町村事業の情報収集と対策について（濱本保健福祉部担当理事）

地域ケア会議・地域リハビリテーション活動支援事業など市町村事業の情報収集と対応検討のため「地域包括ケア対策委員会（仮）」を立ち上げる. 渉外部が中心になって運営し保健福祉部・各ブロックと連携をとりながら対応していく.

→承認

VIII. 報告事項（特記報告のみ記載。）

19. 代表理事行動について（志井田代表理事）

平成27年4月～5月の代表理事行動について報告があった。

20. 県協会宛て依頼案件について（志井田代表理事）

平成27年4月1日～5月31日までの間に県協会宛てに17件の依頼（研修会案内依頼4件、講師・委員推薦依頼6件、共催・後援依頼4件、その他依頼3件）があった。

21. 教育部主催研修会開催予定について（白山教育部担当理事）

今後の研修会開催予定について以下のように報告。

老年期分野研修会 平成27年11月1日（日）

身障分野研修会 平成27年11月8日（日）

地域分野研修会 平成27年9月または10月

現職者共通研修 第1回 平成27年10月24日（土）麻生リハビリテーション大学校

第2回 平成28年2月13日（土）九州芸文館（県OT学会と共催）

現職者選択研修（精神分野）

平成27年9月12日（土）麻生リハビリテーション大学校

22. 第20回福岡県作業療学会の進捗状況について（有久学術部担当理事）

準備状況について報告。平成28年3月の開催予定であったが、会場の都合等で平成28年2月13日（土）14日（日）に変更になった。

23. ジャーナル「作業療法・福岡 第14号」編集・企画について（有久学術部担当理事）

編集・企画の進捗状況について報告。

24. 平成27年度介護講座開催に伴う講師派遣について（田中渉外部担当理事）

福岡県社会福祉協議会からの依頼に対応し講師を派遣する。

25. 福岡県介護支援専門員協会役員について（田中渉外部担当理事）

福岡県介護支援専門員協会の役員改選があり、田中理事が外部理事として選任された。

26. 地域ケア会議について（濱本保健福祉部担当理事）

久留米市における地域ケア会議にむけて久留米地区PTOTST連絡会を立ち上げた。

27. 保険委員会主催研修会について（福田保険委員会担当理事）

介護報酬改定に関する研修会（平成27年4月18日開催）に119名（OT103名、他職種16名）参加者があった。

28. 西日本国際福祉機器展2015出展について（佐藤企画委員会担当理事）

西日本国際福祉機器展2015（平成27年10月29日（木）～10月31日（土）開催）に出展する予定。

IX. 次回開催日

平成27年度 第3回理事会

日時：平成27年8月3日（月）19：00～

場所：株式会社らそうむ 良創夢リハビリスポーツガーデン

各部・委員会からのお知らせ

【学術部】

1. 第20回福岡県作業療学会

日 時：平成28年2月13日（土），14日（日）

会 場：筑後広域公園芸術文化交流施設

九州芸文館（筑後市大字津島1131）

テーマ：作業療法×地域＝創造

～エンジョイがみんなの援助に～

演題募集：平成27年7月1日（水）

～8月31日（月）13：00まで

応募方法は、学会ホームページをご覧ください。

<http://20thfukuokaot.web.fc2.com>

- 1) 学会ホームページ上の「演題申込用紙」をダウンロードし、必要事項をご入力ください。「演題申込用紙」と作成した抄録をメールに添付し、件名に「第20回学会演題申込」と記載した上で、後述の応募・お問合せ先にお申込みください。なお、「抄録作成手順」「抄録見本」もホームページ上にてダウンロードできますのでご参照ください。

※応募・お問い合わせ先：

第20回福岡県作業療学会 査読部

fuku.ot.20th.sadoku@gmail.com

（査読担当：村元 聖治）

- 2) メールアドレスのお間違えがないようご注意ください。お申込みを頂いた後の演題受理、演題採択決定、発表形式等のご連絡等をさせていただきます。3) 演題は査読者による査読を経た後に採択されます。採択後の演題の取り下げは受付かねますのでご了承ください。演者が発表できない場合は共同演者に代読して頂きます。

2. 『作業療法・福岡』第14号 投稿論文募集

発刊予定：平成28年3月

募集原稿：原著，短報，報告，症例報告など

募集期間：平成27年10月1日（木）17：00まで

申込方法：

執筆申込書と完成原稿をご提出ください。なお論文掲載の可否につきましては、筆頭執筆者へ通知いたします。

※執筆申込書は本協会ホームページにあります。<http://www.fuku-ot.org/> をご覧下さい。

※本誌に掲載される著作物の著作権は福岡県作業療法協会に帰属します。

提出先：小倉リハビリテーション学院諫山歩までEメールで送付してください。

アドレス：tac.tam.isayama@kokura-reha.jp

※昨年より査読を導入し、学術的価値の高いジャーナルとなっています。今後の自身のステップアップの足がかりとして、自身の研究を形として残す第一歩として、自身の作業療法の成果をまとめてみる機会として、是非投稿をお願いいたします。

【北九州ブロック】

1. 活動報告

＜北九州ブロック＞

ブロック企画会議開催

平成27年5月11日（月）19：00～

（公社）福岡県作業療法協会事務所

＜小倉北・門司エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成27年5月12日（火）19：00～

新小文字病院 すみれ寮1階会議室

＜小倉南・京築エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成27年4月8日（水）19：00～

曾根東市民センター

＜八幡西・遠賀・中間エリア＞

エリア事業企画会議開催

平成27年4月14日（火）19：00～

産業医科大学病院

第1回北九州ブロック研修会開催

日 時：平成27年5月15日（金）19：00～

会 場：中間ハーモニーホール

テーマ：「職員のためのメンタルヘルス～あなたのストレスケアは大丈夫？治療者がうつ病にならないために～」

講 師：米良貴嗣氏（八幡厚生病院 医師）

参加者：約30名

＜八幡東・戸畑・若松エリア＞

第2回北九州ブロック研修会開催

日 時：平成27年6月12日（金）19：00～

会 場：九州栄養福祉大学小倉南区キャンパス

テーマ：「事例を通じた人間作業モデルの基本的概念と評価」

講 師：青山克実氏

（麻生リハビリテーション大学校）

【福岡ブロック】

1. 事業企画会議開催：4月7日，5月14日，6月18日

2. 広報部

1) 「Joy Style 春号」（4月）発行

2) Facebook：随時更新中

3. 教育学術部

「感覚統合について」

日 時：6月5日（金）19：00～20：30

会 場：福岡赤十字病院 椎木記念ホール

講 師：古野優子氏

（北九州総合療育センター）

参 加：80名（会員：73名 他職種：7名）

4. エリア会

1) 南部地区エリア会

平成27年度エリア会内容検討・福岡県作業療法協会について

日 時：6月25日（木） 会場：アミカス

⇒中止

【筑後ブロック】

<公1>

1. 事業企画会議

1) 第1回 筑後ブロック事業企画会議開催

開催日：平成27年4月20日（月）19:30～21:30

場 所：高良台リハビリテーション病院

出席者：29名

2) 第1回 B地区企画会議

開催日：平成27年4月10日（金）18:30～20:30

場 所：介護老人保健施設のぞみ船小屋

内 容：

①今年度（27年度）年間予定について

運営委員メンバーについて

<筑後ブロックB地区>

地区長；中原徳郎

介護老人保健施設 のぞみ船小屋

副地区長；大村洋介

おおかわ訪問看護ステーション

学術担当；山下和希 川崎病院

会計担当；布川未来 高木病院

（新）委員；野口陽司 八女リハビリ病院

（新）委員；古賀陽子 筑後市立病院

以上6名

※辞任；木村有希 八女リハビリ病院

出席者：6名

3) 第1回 C地区企画会議

開催日：平成27年5月19日（火）18:00～19:30

場 所：介護老人保健施設 はなぞの

内 容：平成27年度C地区研修会について 等

出席者：5名

2. 研修会

1) 筑後ブロックA地区研修会開催

①テーマ：日本作業療法士協会生涯教育制度の概要について～基礎教育から専門作業療法士取得研修の流れまで～

②開催日及び会場：

平成27年3月6日（金）19:00～21:00

えーるピア久留米

（生涯学習センター301・302学習室）

③講師：松田隆治先生（九州栄養福祉大学）

④運営：担当：

国崎氏（聖マリア病院）、古賀氏（ゆうかり学園）

江口氏（高良台リハビリテーション病院）

会計：堀田氏（高良台リハビリテーション病院）

⑤参加者：24名

2) 平成26年度C地区事例検討報告会開催

①開催日時：

平成27年2月18日（水）19:00～20:30

②場所：帝京大学福岡医療技術学部

③参加者：

座長：3名、発表者：10名（予定11名）

聴講者：3名（予定4名） その他聴講者：29名

<公2>

1. 広報活動

1) Facebook広報内容

2/14：第19回福岡県作業療法学会開会について

2/16：第19回福岡県作業療法学会報告について

2/19：C地区事例検討報告会について

2/23：筑後ブロックA地区ナイトセミナーのお知らせ（3/6:19時～）

2/26：役員候補者選挙のインターネット投票について

3/1：第50回作業療法国家試験実施

3/30：メンバー紹介 ～其の3～

4/10：日本作業療法学生連盟（JAOTS）九州支部
第一回活動のお知らせ（4/29）

【今後の活動予定】

<公1>

1. 事業企画会議

1) 第2回 筑後ブロック事業企画会議開催予定

開催日：平成27年6月15日（月）19:30～

場 所：高良台リハビリテーション病院（代表者）

2) 第2回 B地区企画会議開催予定

開催日：6月中旬予定

場 所：介護老人保健施設のぞみ船小屋

2. 研修会

1) 第1回分野別研修会開催予定

開催日時：平成27年7月12日（日）

場所：専門学校久留米リハビリテーション学院

①身体障害部門

・テーマ：高次脳機能障害について

・講 師：筒井 裕介先生（朝倉健生病院）

②老年期障害部門

・テーマ：認知症の方への作業療法実践

・講 師：松浦 篤子先生

（荒尾こころの郷病院 作業療法士）

③精神障害部門

・テーマ：精神科作業療法の現状と地域に向けて
てできる作業療法を考える

・講 師：大丸 幸先生

（九州栄養福祉大学 作業療法士）

④発達障害部門

・テーマ：上肢機能の評価とアプローチ
～知覚を捉える～

・講 師：濱本 孝弘先生（聖ヨゼフ園）

<他1>

1. 筑後ブロック親睦会開催予定

①日程：平成27年6月26日（金）19:30～（受付19:00）

②会場：アルティノー

③会費：3,500円

④役割：司会進行－A、D地区、受付・会計－事務局

【筑豊ブロック】

1. 事業企画会議

1) 第1回筑豊ブロック事業企画会議

日 時：平成27年4月14日（火）19：00～20：30

会 場：飯塚記念病院 グランドホール

参加者：14名

内 容：新人研修会・歓迎会について、平成27年度筑豊ブロック研修会について、他

2) 第2回 筑豊ブロック事業企画会議

日 時：平成27年6月8日（月）19：00～20：30

会 場：飯塚記念病院 グランドホール

参加者：14名

内 容：第2回、第3回筑豊ブロック研修会について、市民向け啓発活動について、他

2. 研修会報告

1) 新人研修会

日 時：平成27年5月23日（土）17：00～18：30

会 場：イイヅカコミュニティーセンター

参加者：4名（含新人2名）

2) 新人歓迎会

日 時：平成27年5月23日（土）19：00～21：00

会 場：三拍子

参加者：22名（含新人4名）

3) 第1回筑豊ブロック研修会

日 時：平成27年6月12日（金）19：00～21：00

テーマ：きく・はなす～コミュニケーションってなんだろう？～

講 師：本松達典先生（松岡病院、臨床心理士）

参加者：29名

3. 広報誌報告

筑豊OT TIMES 第12号 平成27年4月15日発行

九州大学病院

【募集職種】 作業療法士（身障のOT部門）1名

【雇用期間】 平成28年4月30日まで

【応募期限】 随時

【応募条件】 心身健康で、作業療法士免許を有する者

【応募書類】

1) 自筆履歴書（履歴書フォームへ）

2) 成績証明書（作業療法士養成課程分）

履歴書フォーム：当院専用を必ず使用

http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/app/uploads/fck/file/20141014_095546.pdf

【勤務条件】

週38、75時間勤務（8：30～17：15）土日祝休み

【詳細条件】

下記、病院職員募集を熟読して下さい

<http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/app/modules/recruit/index.php>

【連絡先】

〒812-8582 福岡県東区馬出3-1-1

九州大学病院総務課人事係 担当：菅野

TEL：092-642-5024

見学・質問等問合せ 担当OT藤田

E-Mail：afujita@reha.med.kyushu-u.ac.jp

体に合った車いす・目的に合った車いす
をご提供します
車いす・介護用品・福祉用具レンタル

本社／福岡市中央区天神5-4-15
営業本部／糟屋郡粕屋町仲原3丁目9-20
TEL／092-938-2208
HP／<http://www.takisyokai.co.jp>



タキ商会

大川病院 濱村美千代

はじめまして、豊前市にある大川病院に勤務する濱村美千代と申します。今回、高山病院の矢野典子先生からのご紹介で、このような機会をいただきましてありがとうございます。

気づけば早いもので、当院に入職したのは平成9年、今年で19年目となります。こんなに月日が続いているという実感はあまりなく、あっという間に過ぎてきたように感じます。では、当院の紹介をさせていただきます。

当院は昭和10年11月に開設された病院です。現在は、精神一般病棟60床、精神療養病棟Ⅰ60床、認知症治療病棟Ⅰ120床（ほほえみ病棟：60床、ひまわり病棟：60床）の計240床の精神科病院です。併設として、精神科デイケア（小規模）、重度認知症デイケアがあります。作業療法士は現在9名在籍しており、精神科作業療法担当4名、精神療養病棟担当1名、認知症治療病棟担当2名、精神科デイケア担当1名、重度認知症デイケア担当1名となっています。

私は入職1年目の重度認知症デイケアから始まり、現在は精神科作業療法の担当をさせていただいています。精神科担当といっても、以前に比べ精神科病棟には認知症の方が多くなり、精神疾患と認知症とが混在する中での作業療法には、様々な配慮や工夫が必要になってきています。集団活動が主となっている中、認知症の方に対するGroup（回想法・学習療法など）を取り入れながら、OTみんなで工夫を考え試行錯誤しています。その他、カラオケ・創作活動・手芸・レクリエーション・社会復帰Group・ミュージックケアなどの活動も行っています。

入職からを振り返ってみると、始めの頃は「自分には何がしてあげられるのか」「対象者には何が 필요한のか」などを考えながら仕事に励んでいたように思えます。ただ、今考えると初々しいと思う反面、高慢で相手の出来ない部分ばかりを観ていたなと恥ずかしくもなります。認知症となり人生（数十年）の最後を院内で迎える人、精神疾患を抱え何十年もの間入院生活を送り、この病院が家であり職員が家族と化し、その職員に見守られながら最後を迎える人、元気に退院し仕事を頑張っている人、現在入院生活を送っている人など、多くの方々と縁で結ばれ、めぐり合うことで多くのことを感じさせていただきました。そして今思うことは、“どちらか一方が支えている”のではなく、“共に支え合い寄り添い生きている”のだと感じます。2枚のトランプを想像してください。その2枚を立てピラミッドを作るには、ちょうど良い角度や力加減でなければ、上手くピラミッドを作ることはできません。“支える”と言葉では簡単な事のように感じますが、実際は、相手を思い相手に合わせる事が出来なければ、支え合うことはできません。私たちは日々、対象者と共に喜び、笑い、悲しみ、励まし合いながら感情を共有することが、私たちのエネルギー源になっているのではないのでしょうか。もちろん、作業療法士としての知識・能力を活かしお役にたつことが大切な仕事です。ただ、私たちも対象者から多くのもの（活力）をもらい支えて頂いていることに、遅ればせながら、最近の私の忘れてはならない「志」として持ち、現在仕事をしています。

“志を立ててもって万事の源となす（吉田松陰）”明倫小学校（山口県萩市）出身の私にとって、長州の血が騒ぎます。

さて、あなたの志はなんですか？

これからも、作業療法士として人として成長し、多くの人と共に歩いていけるよう努力していきたいと思います。

“諸君、狂いたまえ！”



リレーエッセイ

療養介護事業所ひなた家 鐘ヶ江秀俊

皆さん、こんにちは。私は、北九州市八幡西区真名子という場所にある療養介護事業所ひなた家で勤務しています。療養介護事業所とは医療と常時介護を必要とする方に、医療機関として機能訓練、療養上の管理、看護、介護および日常生活のお世話を行う施設です。当施設は平成25年5月に開所し、18歳以上の心身に重度の発達障害を持つ利用者様が42名入所され、短期入所4名の受け入れも常時行っております。OT3名、PT1名のリハスタッフで利用者様の食事や排泄、整容・更衣・コミュニケーション等、生活場面へ介入し、機能・生活能力維持や生活での楽しみのために必要なこと等を考え、個別での訓練実施や生活の中での姿勢の調整や呼吸管理、運動の実施の促し、生活の中で使用する補装具や食事介助用品等の検討等を看護師や生活支援員の協力のもと行っています。利用者様は言葉の表現が難しく、表情や仕草で伝えられる方もいれば表情の変化も少なく感情を表わしにくい方もおられ、利用者様の思いを知ることの難しさを感じることもあります。目標や訓練プログラムが利用者様の為にもなるように、関わりを大切にし、挨拶やお話を毎日一人一人にたくさんできるよう努めています。毎日、関われば関わるほどに言葉以上の感情や訴えが返ってくることもあります。また、面会に来られた家族との会話も大切に



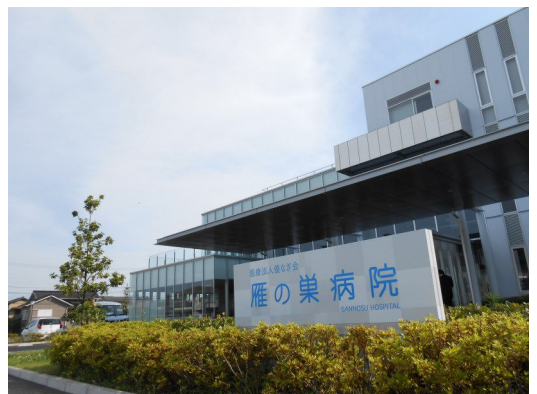
にしています。利用者様や家族の思いを知り目標をたて個別訓練するだけでなく、生活場面の中で表情の変化や姿勢の変化に気づき声掛けや姿勢の修正を行ってもらうことの大切さを感じています。毎日、姿勢の調整や動作の促しが出来なければ拘縮・体の変形・筋力低下は進んでしまいますし、食事や移乗などの統一した対応が利用者様・職員の負担の軽減にもなります。訓練や生活時間の介入に追われながらも一人一人との時間を大切にし、明るく元気に振る舞い素直に向き合っていきたいと思っています。リハスタッフ共々仲良く楽しく、成長しあって、利用者様の為に頑張っていきたいと思っています。

医療法人 優なぎ会 雁の巣病院 渡邊雅子

高校生の頃、OTの就職体験でビビッと目覚め、たくさんの仲間、家族に支えられてのOT生活も15年目となりました。田川市・北九州市の精神科病院での勤務を経て、現在は福岡市へ嫁ぎ雁の巣病院で多忙ながらも充実した日々を過ごしています。

当院は平成26年に新病院がグランドオープンとなり、病棟部門の精神科救急病棟3病棟、精神科急性期治療病棟1病棟、精神療養病棟1病棟、一般病棟1病棟の計6病棟に8名、在宅部門の精神科デイケア（精神・アルコール）、重度認知症デイケア、訪問看護の4課に7名、総勢15名のOTRで奮闘しています。私自身は、入院・外来通院患者に向けての作業療法を担当していましたが、昨年9月から訪問看護課へ異動し、看護師とペアになり毎日東西南北へと訪問車を走らせています。地域生活を送る利用者への訪問は、集団を相手にしていた病棟OTに比べ、個々にたっぷり時間をかけ細かに話を聞くことで、その人が『地域で生きている』を感じることができます。と共に、“大切な宝物達”で溢れ返る部屋に驚き、何気ない事にも共鳴しお腹を抱えて笑い、辛かった体験に共に涙し・・・と私の感情もその都度一緒に揺れ動く日々です。様々な利用者、症状と向き合わなければならず、「辛いなあ」と感じる事もありますが、基地であるスタッフルームへ戻り、今日1日を多職種間で報告・相談できる情報共有の時間が、まだまだ未熟な私にとっては大切なひとときで『また明日！！』への源にもなっています。

そして今はまだ良くわからずに「ママのお仕事オーティアーアール」と笑顔で話す娘達にも素敵なOTの仕事伝えていけるよう、これからもバリバリ成長していきたいと思っています。



会員動向調査

調査期間 (2015. 1. 14～2015. 5. 30)

福岡県作業療法協会 会員数2,623 名 (正会員2,354 自宅会員269名)

<入会>

塚田 佑亮 喜之道クリニック : 2015年3月
 田中 佑果 相生リハビリテーションクリニック : 2015年3月
 小林 匠 新小文字病院 : 2015年2月
 安永 正則 九州栄養福祉大学 : 2015年5月
 大島 充裕 新小文字病院 : 2015年5月
 竹井 良太 新小文字病院 : 2015年5月
 野村 恭子 直方中村病院 : 2015年5月
 藤原 彰二 東筑病院 : 2015年5月
 竹下 智 東筑病院 : 2015年4月
 山本 奈央子 新小倉病院 : 2015年5月
 小林 尚子 桜クリニック : 2015年4月
 藤末 美華 豊前病院 : 2015年4月
 久保田 弘佳 おかがき病院 : 2015年4月
 中原 あすか 行橋中央病院 : 2015年4月
 松本 多正 (株) 楽々サービス : 2015年4月
 笠原 周平 株式会社 リハソリューション : 2015年3月
 星先 香菜 共立病院 : 2015年3月
 諏訪下 沙織 介護老人保健施設 なびき苑 : 2015年4月
 福田 麻依 介護老人保健施設 なびき苑 : 2015年4月
 今村 綾香 Powerful Kids こども発達センター : 2015年4月
 今井 美帆 自宅 : 2015年4月
 山本 将彰 いきいき那珂リハビリデイサービスセンター : 2015年3月
 藤崎 大輔 福岡豊栄会病院 : 2015年2月
 高橋 晋也 桜十字福岡病院 : 2015年3月
 岩田 善博 誠愛リハビリテーション病院 : 2015年2月
 中野 一博 白十字病院 : 2015年1月
 池田 悠 香椎丘リハビリテーション病院 : 2015年1月
 田代 裕太 誠愛リハビリテーション病院 : 2015年4月
 田中 紗代 誠愛リハビリテーション病院 : 2015年5月
 高村 優太 福岡豊栄会病院 : 2015年4月
 福島 章憲 桜十字福岡病院 : 2015年5月
 山野 詩歩 嶋田病院 : 2015年4月
 中野 宏治 福岡リハビリテーション病院 : 2015年4月
 高津 修平 三善病院 : 2015年2月
 高橋 あゆみ エイドケア訪問看護ステーション : 2015年4月
 姫野 好美 飯塚病院 : 2015年2月
 山本 彩子 穎田病院 : 2015年4月
 山田 貴博 久留米大学病院 : 2015年2月
 小堺 翔 松岡病院 : 2014年6月

田中 敬基 柳川リハビリテーション病院 : 2015年2月
 宮村 和寿 大牟田天領病院 : 2015年2月
 切明 あかね 聖マリア病院 : 2015年3月
 甲木 満 聖マリア病院 : 2015年1月
 矢野 貴志 聖ルチア病院 : 2015年1月
 田中 理子 高良台リハビリテーション病院 : 2014年12月
 鶴田 知佳 新船小屋病院 : 2014年12月
 野田 翔平 川崎病院 : 2015年1月
 龍 一騎 甘木中央病院 : 2014年6月
 有馬 志保 こぐま学園 : 2015年1月
 木道 大介 自宅 : 2015年2月
 荏隈 祥多 原鶴温泉病院 : 2015年2月
 安藤 瞳 聖マリア病院 : 2015年4月
 荒瀬 誠 重藤外科医院 : 2015年4月
 武智 春菜 神代病院 : 2015年4月
 田中 ゆう子 大牟田天領病院デイケアセンター : 2015年4月
 坂本 由美 高木病院 : 2015年5月
 堺 純孝 三池病院 : 2015年5月
 日吉 温美 介護老人保健施設グリーンビュー希望ヶ丘 : 2015年5月
 中島 百合香 介護老人保健施設グリーンビュー希望ヶ丘 : 2015年5月
 永尾 歩美 りんどう学園 : 2015年5月
 相浦 良太 老人保健施設ふれあいの里道海 : 2015年4月
 豊増 奈津子 自宅 : 2015年4月
 坂井 憲太郎 自宅 : 2015年4月

<県内移動>

相良 恵美子 新生会病院 : 2014年4月
 (西野病院より)
 木部 菜津美 かん養生クリニック : 2015年4月
 (戸畑リハビリテーション病院より)
 八木 愛花 自宅 : 2014年8月
 (萩原中央病院より)
 藤崎 喬子 正和中央病院 : 2014年8月
 (新行橋病院より)
 平野 七奈 門司区医師会在宅ケア総合センター : 2015年2月
 (三萩野病院より)
 青木 典子 中間市立病院 : 2015年2月
 (デイサービス桜倶楽部より)
 安永 昌徳 株式会社ライフステージぱれっと : 2015年2月
 (介護老人保健施設宗像アコールより)
 安永 佳世 株式会社ライフステージぱれっと : 2015年2月
 (自宅より)

渡部 夏子	黒船デイサービス4号：2014年4月 (たたらりハビリテーション病院より)	田中 良太	福岡山王病院 総合ケアセンター ももち：2014年4月 (柳川リハビリテーション病院より)
波野 寿子	自宅：2015年4月 (九州労災病院より)	財津 理恵	介護老人保健施設 いこいの森 ：2015年1月 (金隈老人保健施設 フラワーハウス博多より)
加治屋 陽介	自宅：2015年4月 (戸畑リハビリテーション病院より)	椎葉 智恵	桜十字福岡病院：2014年4月 (社会保険 仲原病院より)
木下 亮平	北九州リハビリテーション学院 ：2015年4月 (香椎丘リハビリテーション病院より)	榎田 真吾	福岡山王病院：2015年1月 (柳川リハビリテーション病院より)
槇 抄子	戸畑けんわ病院：2014年4月 (大手町病院より)	今村 佳穂	福岡赤十字病院：2015年1月 (糸島医師会病院より)
高木 麻由	北九州市立総合療育センター ：2015年4月 (北九州中央病院より)	片山 智裕	溝口外科整形外科病院 ：2014年12月 (南川整形外科病院より)
安部 千秋	自宅：2015年5月 (小倉リハビリテーション病院より)	荒木 あき	有料老人ホームフィランソレイユ 笹丘：2015年4月 (デイサービスセンター あいあい田川より)
朝倉 和沙	西野病院：2015年5月 (介護老人保健施設 やすらぎ より)	清水 美紀	高齢者総合福祉施設 なの国 ：2015年2月 (介護付有料老人ホーム 西の丘より)
宮田 梓	介護老人保健施設 伸寿苑 ：2015年4月 (小倉リハビリテーション病院より)	福島 絵莉夏	訪問看護ウィズナースステーショ ン福岡：2015年1月 (さかいの樹 クローバーガーデンより)
河野 めぐみ	社会福祉法人 共生の里 ：2015年4月 (株式会社コールより)	國光 力	多機能型障がい福祉サービス事業 所 虹の家：2014年9月 (香椎丘リハビリテーション病院より)
村谷 美里	自宅：2015年4月 (介護老人保健施設けやきより)	棕 学美	自宅：2015年3月 (福岡赤十字病院より)
安倍 敏文	自宅：2015年5月 (福岡和白病院より)	石塚 美幸	自宅：2015年2月 (香椎丘リハビリテーション病院より)
末松 愛恵	：2015年3月 (北九州市立門司病院より)	古賀 涼子	自宅：2015年4月 (中村病院より)
佐々木 智恵美	自宅：2015年4月	古賀 典子	自宅：2014年12月 (福岡赤十字病院より)
三村 和礼	自宅：2015年4月 (医療法人 共和会より)	久保 瑠美	自宅：2014年12月 (福岡保養院より)
中村 沙也嘉	自宅：2015年4月 (西野病院より)	後藤 拓見	福岡県立精神医療センター 太宰 府病院：2015年4月 (宮松病院より)
荒木 有希	東福岡病院：2015年1月 (大森整形外科医院より)	野田 紗千恵	九州大学病院：2015年4月 (戸畑共立病院より)
堀 奈月	北九州古賀病院：2015年2月 (北九州中央病院より)	飯盛 美紀	九州大学病院：2015年4月 (白十字病院より)
福留 幸典	福岡聖恵病院：2014年1月 (金隈病院より)	小池 加恵	福西会病院：2015年4月 (福西会南病院より)
久家 恵介	自宅：2015年2月 (寺沢病院より)	吉井 紗央里	晴明病院：2015年5月 (岡部病院より)
安永 ちひろ	宗像アコール：2015年4月 (嶋田病院より)	桑原 みゆき	生活障害研究所：2014年4月 (福岡医健専門学校より)
小峠 政人	千鳥橋病院：2015年1月 (たたらりハビリテーション病院より)	八尋 雅子	福岡市介護実習普及センター ：2015年4月 (自宅より)
吉田 大謙	千鳥橋病院付属城浜診療所 ：2015年4月 (千鳥橋病院より)		
甲斐 優希	香椎原病院：2015年4月 (三原デイケア+クリニックりぼん・りぼんよ り)		

富永 圭祐	介護老人保健施設リハビリハイツ アシスト桜台	: 2015年2月 (牧病院より)	玉城 純子	自宅	: 2014年12月 (筑水会病院より)
三苫 佳世子	自宅	: 2015年2月 (糸島医師会病院より)	久野 真矢	帝京大学 福岡医療技術学部	: 2015年4月 (九州栄養福祉大学より)
小川 瞳	くらて病院	: 2015年4月 (新行橋病院より)	野方 拓	久留米リハビリテーション学院	: 2015年4月 (福岡和白リハビリテーション学院より)
原田 愛子	飯塚市立病院	: 2015年4月 (宮田病院より)	香田 隆司	柳川病院	: 2015年4月 (朝倉健生病院より)
山本 達也	飯塚嘉穂病院	: 2015年4月 (戸畑共立病院より)	秋山 綾子	聖ルチア病院	: 2015年4月 (自宅より)
権藤 実希	恵の里デイサービスセンター	: 2015年3月 (河内病院より)	田中 智香	船小屋病院	: 2015年5月 (新船小屋病院より)
船越 静香	自宅	: 2015年4月 (宗像医師会病院より)	前田 亮介	聖マリアヘルスケアセンター	: 2015年4月 (聖マリア病院より)
宮本 香織	株式会社らそうむ	: 2015年4月 (アクティブ応援館 かめSUNより)	立野 真由美	自宅	: 2015年5月 (船小屋病院より)
藤村 祐輔	方城療育園	: 2014年10月 (潁田病院より)	山浦 美穂	自宅	: 2015年4月 (ヨコクラ病院より)
江夏 浩亮	良創夢デイサービスセンター 飯塚店	: 2015年4月 (嘉麻良創夢デイサービスセンターより)	<退会者>		
成尾 奏帆	久留米リハビリテーション病院	: 2015年4月 (北九州中央病院より)	染矢 的信		: 2015年1月
國武 亜由美	公立八女総合病院	: 2014年4月 (介護老人保健施設 舞風台より)	片江 良江		: 2015年1月
松野 豊	柳川リハビリテーション病院	: 2015年3月 (高木病院より)	吉田 美里		: 2015年1月
内村 智子	みずま高邦会病院	: 2015年1月 (介護老人保健施設 水郷苑より)	平 泰輔		: 2015年1月
亀澤 康一郎	筑水会病院	: 2013年4月 (堀川病院より)	平川 拓視		: 2015年1月
福田 理絵	菊池医院	: 2014年4月 (自宅より)	小林 幸子		: 2015年1月
高野 健司	みさき病院	: 2014年8月 (桜十字福岡病院より)	浅上 初音		: 2015年1月
森 健一朗	デイサービス よかとこ	: 2014年8月 (医療法人 親仁会より)	平岡 美里		: 2015年1月
光安 美里	ハーモニー聖和	: 2014年11月 (聖和記念病院より)	菊山 みずき		: 2015年2月
佐藤 マミ	ハーモニー聖和	: 2015年2月 (聖和記念病院より)	岩崎 正光		: 2015年2月
原 久美子	デイサービス はたさき	: 2014年3月 (くまクリニック デイケアより)	村田 直也		: 2015年2月
高橋 知義	株式会社 Like Lab	: 2015年4月 (こぐま学園より)	古賀 佳代子		: 2015年2月
稲本 祥世	いきいき野中デイサービスセンター	: 2015年3月 (久留米リハビリテーション病院より)	大場 美子		: 2015年2月
			諸岡 亜佳音		: 2015年2月
			塚本 裕美		: 2015年2月
			鹿子 供宏		: 2015年2月
			吉田 朗		: 2015年3月
			岩室 千絵		: 2015年3月
			野田 修司		: 2015年3月
			西ノ村 真代		: 2015年3月
			吉野 まどか		: 2015年3月
			森 翔		: 2015年2月
			増本 良平		: 2015年3月
			藤原 あづさ		: 2015年2月
			徳野 圭昭		: 2015年3月
			塚本 理恵		: 2015年3月
			谷口 りえ		: 2015年2月
			菅沼 一平		: 2015年2月
			城島 拓也		: 2015年2月
			重富 優子		: 2015年3月
			國友 美由紀		: 2015年3月

江頭 麻美 : 2015年3月
 石瀧 佳代子 : 2015年2月
 荒牧 恭子 : 2015年2月
 黒塚 友紀 : 2015年3月
 田竈 茜 : 2015年3月
 松岡 太志 : 2015年3月
 田尻 由季 : 2015年3月
 白山 千澄 : 2015年3月
 黒木 孝枝 : 2015年3月
 北岡 敏史 : 2015年3月
 板垣 庸子 : 2015年3月
 上前 奨伍 : 2015年3月
 上前 沙和子 : 2015年3月
 國松 千里 : 2015年3月
 熊谷 可菜 : 2015年3月
 迫田 こずえ : 2015年3月
 末田 尚子 : 2015年3月
 末松 功之 : 2015年3月
 平田 圭子 : 2015年3月
 保科 可織 : 2015年3月
 松尾 草子 : 2015年3月
 松本 めぐみ : 2015年3月
 真名井 朋子 : 2015年3月
 福山 絢 : 2015年3月
 壱岐 真輔 : 2015年3月
 梅野 希望 : 2015年3月
 小野田 恵 : 2015年3月
 木下 栄子 : 2015年3月
 高橋 路子 : 2015年3月
 田尻 昌也 : 2015年3月
 古川 明世 : 2015年3月
 山元 裕子 : 2015年3月
 瓜生 奈央 : 2015年3月
 久保 かおる : 2014年12月
 大山 幸子 : 2015年3月
 関 一彦 : 2015年3月
 仲野 千喜 : 2015年3月
 繁谷 直子 : 2015年3月
 深町 綾乃 : 2015年3月
 本村 藍子 : 2015年3月
 松永 舞 : 2015年3月
 堀 恭介 : 2015年3月
 中村 祥子 : 2015年3月
 児玉 明日香 : 2015年3月
 野見山 智恵 : 2015年3月
 古賀 貴敏 : 2015年3月
 東 潤音 : 2015年3月
 東島 和史 : 2015年4月
 中村 泰等 : 2015年4月
 平岡 航平 : 2015年4月
 長尾 哲男 : 2015年4月
 松井 麻由子 : 2015年4月
 有馬 裕二 : 2015年4月
 林田 彩 : 2015年4月

魚住 瑠惟 : 2015年5月
 寺崎 佳奈子 : 2015年5月
 富村 元紀 : 2015年5月
 矢野 知子 : 2015年5月
 山本 麻衣子 : 2015年5月
 福富 静 : 2015年5月
 橋本 禎子 : 2015年5月

＊会員の皆様へ＊

これまで、会員の皆様の異動状況を会報にて報告してまいりましたが、「事務所へ報告はするが、会報への掲載は望まない」という要望もごあります。

異動等の報告の際、会報への掲載を希望されない場合は所定の用紙（異動届等）にその旨ご記入

異動の際の手続きについて

職場・自宅等の変更のあった方は、必ず文書で県協会事務局へご連絡下さい。

協会ホームページ(<http://www.fuku-ot.org/>)へアクセスし、入会・異動・退会の項から届出用紙をダウンロードして下さい。

用紙に異動前・後の施設名、郵便番号、住所、電話番号を明記して下さい。自宅住所の変更もお忘れなくお願いします。

ご不明な点は、福岡県作業療法協会事務所までお問い合わせ下さい。

TEL 093-952-7587

編集後記

今回の特集では地域包括ケアシステムの中で何が作業療法士に求められているかが明記されています。以前から医療と介護・福祉の連携、病院と地域の連携が必要だと言われ続けてきました。今、私たちは連携するための手段、つまり生活行為向上マネジメントというツールを手に入れました。生活行為向上マネジメントを使用するには研修を修了し事例報告をすることが必要ですが、特集の中の事例で示されているようにこのツールを使えば対象者の思いが引き出しやすくなります。ただ、生活行為向上マネジメントを使えば誰でも同じようにうまく行くとは限りません。どんなツールを使用してもそれは同じです。ツールありきではなく、ツールを媒介に対象者を人として捉え、生活像を把握すること、そして何より信頼関係を築くことが大切だと改めて感じました。人は性格も生活も環境も様々です。自己の事例を積み重ね、他者の事例を経験として共有することで、少しずつ対象者の心に近づいていけるのではないかと思います。人と作業と環境をつなぐ専門職として一步一步着実に進んでいきたいものです。

(許山)